

様式第二号の八 (第八条の四の五関係)

(第1面)

産業廃棄物処理計画書

平成30年 6月23日

大分県知事 広瀬 勝貞 殿



提出者

住 所 大分県佐伯市弥生大字江良1068-1

氏 名 株式会社 風戸工務店

代表取締役 風戸 彰

電話番号 0972-46-0067

廃棄物の処理及び清掃に関する法律第12条第9項の規定に基づき、産業廃棄物の減量その他その処理に関する計画を作成したので、提出します。

事業場の名称	株式会社 風戸工務店
事業場の所在地	佐伯市弥生大字江良1068-1
計画期間	平成28年 4月 1日 ~ 平成29年 3月31日

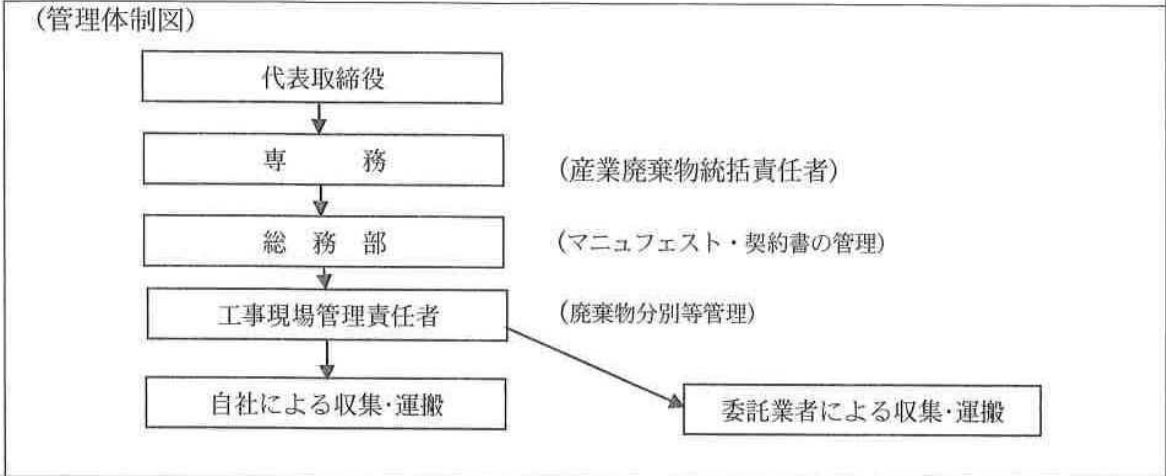
当該事業場において現に行っている事業に関する事項

① 事業の種類	建設業 総合工事業
② 事業の規模	元請完成工事高 : 6.6億円
③ 従業員数	19人
④ 産業廃棄物の一連の処理の工程	<pre> graph LR A[発生 工事現場] --> B[収集運搬 自社又は委託業者] B --> C[中間処理 委託業者] C --> D[最終処分] C -.-> E[再利用] </pre>

(日本工業規格 A列4番)

(第2面)

産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項



産業廃棄物の排出の抑制に関する事項

① 状	【前年度（平成29年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	別紙のとおり	
	排出量	t	t
	(これまでに実施した取組)		
<p>アスファルト殻、コンクリート殻は中間処理業者に委託し再生材として再資源化。 民間解体工事に於いて発生する、建設木材は需要があれば(古民家・リフォーム等)再利用する。</p>			
② 計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	別紙のとおり	
	排出量	t	t
	(今後実施する予定の取組)		
<p>現状と同様。</p>			

産業廃棄物の分別に関する事項

① 現状	(分別している産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) 現場内において分別処理、再生利用できる物は可能な限り再生利用する。(民間発注による解体工事は機械併用人力(手壊し)にて施工し廃棄物の種類を細別している)。
② 計画	(今後分別する予定の産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) 現状と同様。

(第3面)

自ら行う産業廃棄物の再生利用に関する事項

① 現状	【前年度（平成29年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	木くず	
	自ら再生利用を行った産業廃棄物の量	0 t	t
	（これまでに実施した取組） 工事現場で使用した木製型枠は、可能な限り再利用している。 民間解体工事に於いて発生する（梁、柱等）再利用可能な木材を倉庫内に保管するようにしている。		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら再生利用を行う産業廃棄物の量	0 t	t
	（今後実施する予定の取組） 民間工事に於いて発生する建設木材は需要があれば（古民・リフォーム等）再利用する。		

自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項

① 状	【前年度（平成29年度）実績】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら熱回収を行った産業廃棄物の量	0 t	t
	自ら中間処理により減量した産業廃棄物の量	0 t	t
（これまでに実施した取組） 特に実施していない。			
② 画	【目標】 計画なし		
	産業廃棄物の種類		
	自ら熱回収を行う産業廃棄物の量	0 t	t
	自ら中間処理により減量する産業廃棄物の量	0 t	t
（今後実施する予定の取組） 特に実施する予定はない。			

自ら行う産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入処分に関する事項

① 状	【前年度（平成29年度）実績】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った産業廃棄物の量	t	t
	（これまでに実施した取組） 特に実施していない。		
② 計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行う産業廃棄物の量	t	t
	（今後実施する予定の取組） 特に実施する予定はない。		

産業廃棄物の処理の委託に関する事項

① 状	【前年度（平成29年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	別紙のとおり	
	全処理委託量	t	t
	優良認定処理業者への処理委託量	t	t
	再生利用業者への処理委託量	t	t
	認定熱回収業者への処理委託量	t	t
	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	t	t
	（これまでに実施した取組） 適正処理を行っている業者を選定し、作業所毎に委託契約を行っている。		

②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	別紙のとおり	
	全処理委託量	t	t
	優良認定処理業者への 処理委託量	t	t
	再生利用業者への 処理委託量	t	t
	認定熱回収業者への 処理委託量	t	t
	認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処理委託量	t	t
	(今後実施する予定の取組)		
現状と同様。			
※事務処理欄			

産業廃棄物の排出の抑制に関する事項

①現状	【前年度（29年度）実績】						
	産業廃棄物の種類	がれき類	木くず	廃プラスチック類	繊維くず	汚泥	混載
	排出量（t）	2792.8	29.6	8.07	0.08	121.96	55.768
	（これまでに実施した取組） アスファルト殻、コンクリート殻は中間処理業者に委託し再生材として再資源化。 民間解体工事に於いて発生する、建設木材は需要があれば（古民家・リフォーム等）再利用する。						
②計画	【目標】						
	産業廃棄物の種類	がれき類	木くず	廃プラスチック類	繊維くず	汚泥	混載
	排出量（t）	2513.0	27.0	7.3	0.08	110.0	50.0
	（今後実施する予定の取組） 現状と同様						

産業廃棄物の処理の委託に関する事項

①現状	【前年度（29年度）実績】						
	産業廃棄物の種類	がれき類	木くず	廃プラスチック類	繊維くず	汚泥	混載
	排出量（t）	2792.8	29.6	8.07	0.08	121.96	55.768
	再利用業者への処理委託量（t）	2792.8	29.58	8.07	0.08	121.96	55.768
（これまでに実施した取組） 適正処理を行っている業者を選定し、作業所毎に委託契約を行っている。							
②計画	【目標】						
	産業廃棄物の種類	がれき類	木くず	廃プラスチック類	繊維くず	汚泥	混載
	排出量（t）	2513.0	27.0	7.3	0.08	110.0	50.0
	再利用業者への処理委託量（t）	2513.0	27.0	7.3	0.08	110.0	50.0
（今後実施する予定の取組） 現状と同様							

備考

- 1 前年度の産業廃棄物の発生量が1,000トン以上の事業場ごとに1枚作成すること。
- 2 当該年度の6月30日までに提出すること。
- 3 「当該事業場において現に行っている事業に関する事項」の欄は、以下に従って記入すること。
 - (1) ①欄には、日本標準産業分類の区分を記入すること。
 - (2) ②欄には、製造業の場合における製造品出荷額（前年度実績）、建設業の場合における元請完成工事高（前年度実績）、医療機関の場合における病床数（前年度末時点）等の業種に応じ事業規模が分かるような前年度の実績を記入すること。
 - (3) ④欄には、当該事業場において生ずる産業廃棄物についての発生から最終処分が終了するまでの一連の処理の工程（当該処理を委託する場合は、委託の内容を含む。）を記入すること。
- 4 「自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、自ら中間処理を行うに際して熱回収を行った場合における熱回収を行った産業廃棄物の量と、自ら中間処理を行うことによって減量した量について、前年度の実績、目標及び取組を記入すること。
- 5 「産業廃棄物の処理の委託に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、全処理委託量を記入するほか、その内数として、優良認定処理業者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令第6条の11第2号に該当する者）への処理委託量、処理業者への再生利用委託量、認定熱回収施設設置者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律第15条の3の3第1項の認定を受けた者）である処理業者への焼却処理委託量及び認定熱回収施設設置者以外の熱回収を行っている処理業者への焼却処理委託量について、前年度実績、目標及び取組を記入すること。
- 6 それぞれの欄に記入すべき事項の全てを記入することができないときは、当該欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、産業廃棄物の種類が3以上あるときは、前年度実績及び目標の欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、それぞれの欄に記入すべき事項がないときは、「―」を記入すること。
- 7 ※欄は記入しないこと。